

研究主題

人権教育に関する研究

－児童・生徒の望ましい人間関係の育成を図るための学級集団の発達段階に応じた指導法の在り方－

目 次

I	研究の背景とねらい	4
1	研究の背景	4
2	研究のねらいと構想	5
II	研究の方法	7
1	基礎研究	7
2	調査研究	7
3	開発研究	7
III	研究の内容と結果	7
1	基礎研究	7
2	調査研究	10
3	開発研究	15
IV	研究の成果と課題	23
1	研究の成果	23
2	研究の課題	23
O	参考資料	24

＜研究の成果と活用＞

1 学級集団の状態に応じた指導のポイントの明確化

集団の発達段階を踏まえた学級集団の状態を示し、その状態に応じた適切な指導を進めるための指導のポイントを明確にした。日常の学級経営において、学級担任が資料を基にして、学級集団の状態を的確に把握し、児童・生徒の望ましい人間関係の育成を図るための指導を充実させることができる。

2 道徳の時間及び学級活動等を関連付けた指導計画モデルの開発

道徳の時間及び学級活動、朝の会・帰りの会を関連付けた指導を充実させるための指導計画モデルを開発した。道徳の時間及び学級活動における学びを、朝の会・帰りの会において、日常生活や学級集団とのかかわりの中で具体的な実践と結び付け、児童・生徒の望ましい人間関係の育成を効果的に図ることができる。

I 研究の背景とねらい

1 研究の背景

(1) 東京都教育委員会の教育目標

東京都教育委員会の教育目標では、育成する人間像として『互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間』と『社会の一員として、社会に貢献しようとする人間』を挙げている。また、その基本方針1には「人権尊重の精神と社会貢献の精神の育成」を位置付けており、「多様な人々が共に暮らす東京にあって、すべての大人、子供たちが、人権尊重の理念を正しく理解するとともに、思いやりの心や社会生活の基本的ルールを身に付け、社会に貢献しようとする精神をはぐくむことが求められる。そのために、人権教育及び心の教育を充実するとともに、権利と義務、自由と責任についての認識を深めさせ、公共心を持ち自立した個人を育てる教育を推進する。」と述べている。

さらに、基本方針1の(1)には、人権尊重の理念を広く社会に定着させ、あらゆる偏見や差別をなくすため、「国が策定した『人権教育・啓発に関する基本計画』を踏まえるとともに、『東京都人権施策推進指針』等に基づき、人権教育を推進する。」とし、東京都教育委員会の目指す人権教育の目標を「一人一人の児童・生徒等が、発達段階に応じて、人権の意義・内容や重要性について理解し、〔自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること〕ができるようになり、それが実際の態度や行動に現れるようにすること」と定めている。各学校では、人権教育の目標を明確にして、学校全体として組織的・計画的に人権教育を進めることが重要である。その際、法令等に基づき、公正中立の立場で推進することが重要である。

(2) 社会的な背景

情報化、核家族化、少子化等の社会変化にともない、子供たちを取り巻く環境の中で、人間関係の希薄化が様々な課題を生んでいる。平成18年度には、いじめにより児童・生徒が自らその命を絶つという痛ましい事件が相次いで発生し、大きな社会問題となった。

また、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（平成20年1月17日 中央教育審議会）では、「7. 教育内容に関する主な改善事項（4）道徳教育の充実」の中で、「今日、社会規範全体が大きく揺らぐといった社会の大きな変化や家庭や地域の教育力の低下、親や教師以外の地域の大人や異年齢の子どもたちとの交流の場や自然体験等の体験活動の減少などを背景として、生命尊重の心や自尊感情が乏しいこと、基本的な生活習慣の確立が不十分、規範意識の低下、人間関係を築く力や集団活動を通じた社会性の育成が不十分などといった指摘がなされている」とし、子供たちをめぐる課題を投げかけている。

このことから、児童・生徒に対して人権尊重の理念を十分に理解させ、生き生きと意欲的に学校生活を送ることができるようにするとともに、一人一人がもつ可能性を十分に伸ばさせ、自立を促すように指導していくことが、人権教育推進上の重要な課題であると言える。

(3) 望ましい人間関係の育成の重要性

また、同答申「3. 子どもたちの現状と課題」において、子供の心と体の状況に関して、「いわゆる小1プロブレムや学級崩壊などに見られるような自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であることや問題行動等、いじめやいじめによる子どもの自殺、体力の低

下など、子どもたちの心と体の状況にも課題は少なくない。また、自分に自信がある子どもが国際的に見て少ない。学習や将来の生活に対して無気力であったり、不安を感じたりしている子どもが増加するとともに、友達や仲間のことで悩む子どもが増えるなど人間関係の形成が困難かつ不得手になっているとの指摘もある。」と述べている。

以上のことから、学校教育においては、児童・生徒の望ましい人間関係の育成を図るために、個と集団とのかかわりを深めるとともに、集団の一員としての自覚を高める指導が重要であるととらえた。

(4) 研究における人権教育の視点

人権教育の目標は、一人一人の児童・生徒等が発達に応じて、人権の意義・内容や重要性について理解し、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになり、それが実際の態度や行動に現れるようにすることである。

また、学級は、児童・生徒等が相互の人格を尊重し、互いに支え合い、高め合いながら、個性や能力を十分に発揮していく、学習や生活の最も基本的な場である。

「人権教育の指導方法等の在り方について（第二次とりまとめ）」では、「教師は、児童生徒一人一人の大切さを強く自覚して、児童生徒の日常の学校生活も含めて人権が尊重される学級経営をするように努めなければならない。特に、学級経営においては、児童生徒が他者との関わりの中で自らのよさを発揮しながら、学級生活を安心して過ごすことが大切である。」と述べている。さらに「学級経営の留意点」として、「自己と他者に対する尊敬の念を培う」「よさを認め合い、共感的理解を育む」「自己表現できる力やコミュニケーション能力を育成する」を挙げている。

こうしたことから、学級経営を進めるに当たっては、学級内に生じる人権上の様々な課題について、児童・生徒等が正しい認識をもち、人権尊重の精神に基づいて解決を図ろうとする実践的な能力や態度を育てることが重要であると言える。また、一人一人の個性や能力を生かし、学級の一員としての存在感をもつことができるようにするとともに、学級における人権上の課題の解決を図り、望ましい人間関係を育成するために、一人一人の児童・生徒等の個性や能力を発揮できる場の設定や学級の成員の支えや励ましを得られるようにすることや日ごろから、偏見や差別の不合理性に気付かせること等を学級経営において実践することが重要である。

以上のことから、児童・生徒が相互の人格を尊重し、互いに支え合い、高め合いながら、個性や能力を十分に発揮する最も基本的な場としての学級に着目し、学級の集団の一員として認め合い、共によりよい集団づくりのために行動できる望ましい人間関係を育成するための指導の在り方を明らかにすることとした。

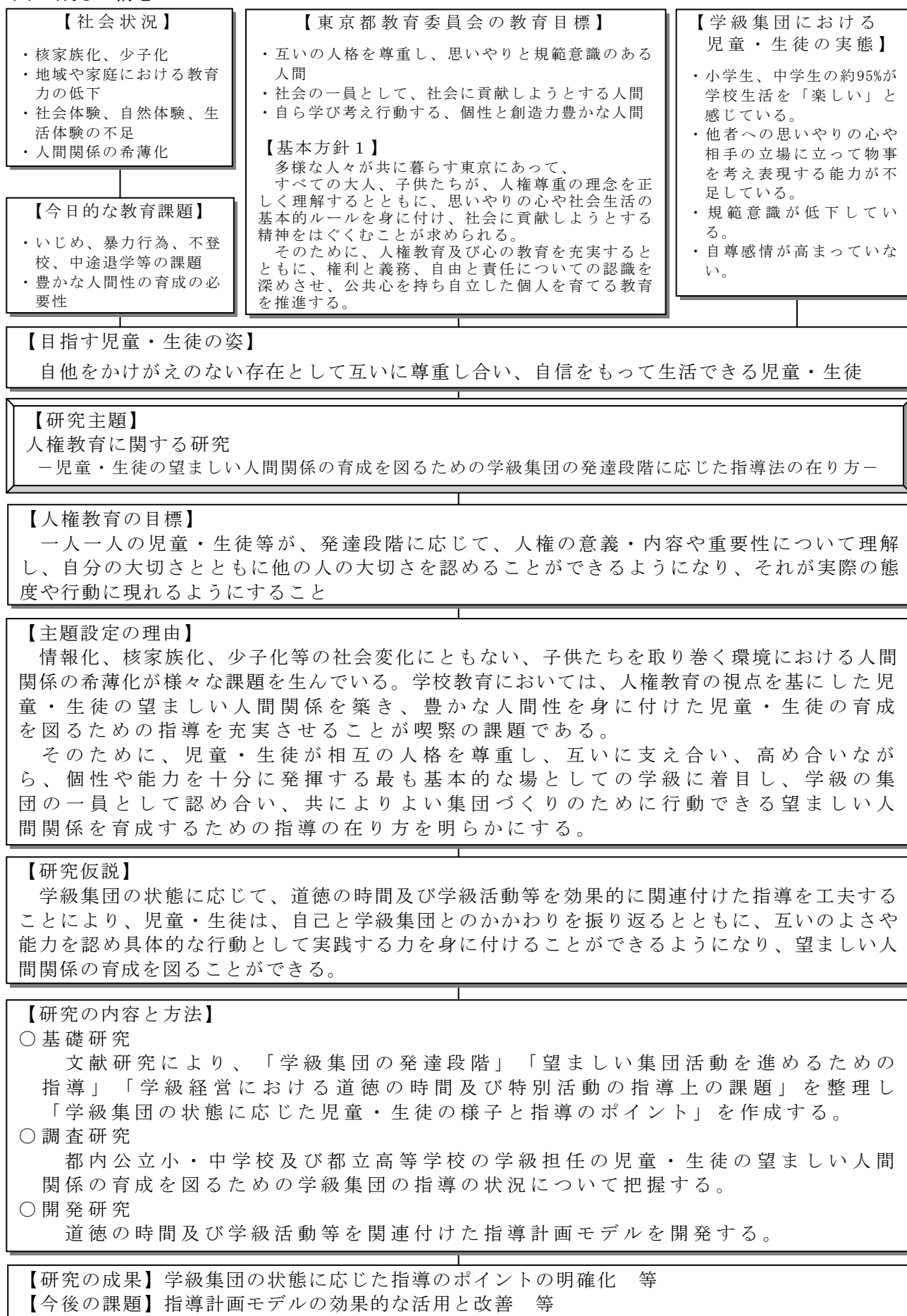
2 研究のねらいと構想

(1) 研究のねらい

本研究では、仮説を「学級集団の状態に応じて、道徳の時間及び学級活動等を効果的に関連付けた指導を工夫することにより、児童・生徒は、自己と学級集団とのかかわりを振り返るとともに、互いのよさや能力を認め具体的な行動として実践する力を身に付けることができるようになり、望ましい人間関係の育成を図ることができる。」と設定し、小学校及び中学校の学級担任が学級集団の状態を的確に把握し、児童・生徒の望ましい人間関係の育成を図るための

意図的・計画的な指導の充実を図る指導資料の開発をねらいとした。

(2) 研究の構想



Ⅱ 研究の方法

1 基礎研究

文献研究により、(1)学級集団の発達段階、(2)望ましい集団活動を進めるための指導を整理し、「学級集団の状態に応じた児童・生徒の様子と指導のポイント」を作成した。

2 調査研究

基礎研究を基に、児童・生徒の望ましい人間関係を育成するための課題や配慮事項等について明らかにすることをねらいとして、都内公立小・中学校教員及び都立高等学校教員 1,992 名を対象に、学級集団の指導の状況に関する調査研究を質問紙法により実施した。

3 開発研究

基礎研究及び調査研究から明らかにした課題を解決するために、小学校及び中学校を対象に児童・生徒の望ましい人間関係を育成するための指導計画モデルを開発した。

なお、開発した指導計画・教材については、都内公立小学校及び中学校において検証授業を実施し、その有効性を検証し、改善を図った。

Ⅲ 研究の内容と結果

1 基礎研究

(1) 学級集団の発達段階

「生徒指導をめぐる学級経営上の諸問題」（平成元年 3 月 文部省）では、「学級は子供たちにとって学習の場であると同時に生活の場でもある。学校での子供の生活は、学級を舞台に展開されるし、交友関係も学級を中心に広がる。学習指導を効果的に行うためにも、生徒指導を着実に進める上にも、その基盤は学級である。

現実の学級は、たまたま特定の地域に住む子供が、教育を受けるため割り振られたという意味で、子供たちにとっては『つくられた』集団である。したがって、学級経営における当面の課題は、この『つくられた』集団の中に、『仲間』または『われら』という連帯感に基づくまとまりをつくりあげ、共通の目的を達成することができるよう相互に協力し合う態勢を確立することである。

すなわち、学級経営においては、学級が一人一人の児童にとって学校生活のよりどころであり、心のよりどころでなければならない。朝、登校して教室に入れば、そこには自分たちの教師と仲間がいて、その中で学習し、生活している限り、余計な不安や懸念に煩わされることがなく、学級の成員として共通の課題に取り組むことに自分の存在意義を見いだすことができるような所属感、連帯感のある学級集団をつくりあげなければならない。」としている。

さらに、学級集団の発達段階を下記のように、5 段階に整理し、学級担任が学級集団の発達段階を的確にとらえ、適切な指導を行っていくことの重要性を示している。

- ① 単なる「集まり」の中で、他に依存することによって不安の緩和を図ろうとする段階
- ② 児童の自然発生的な小集団ができる段階
- ③ 学級の話し合いを通じて、意図的、目的的な小集団が生まれ、活動を通じて仲間意識を形成する段階
- ④ 児童が自分たちの生活から問題を発見し、学級担任の教師の援助を得ながら主体的に問題解決に当たろうとする段階

- ⑤ 問題を発見し、解決するだけでなく、その問題の原因や本質に気付き、一層充実した学級を創造するために積極的に取り組もうとする段階

このことを踏まえ、本研究では、学級集団の発達段階として、次の5段階を設定し、集団の発達段階を踏まえた上で児童・生徒の人間関係を築くことが重要であるととらえた。そして、集団の発達段階に応じた学級集団の状態を明らかにしていくこととした。

1 仲間とのかかわりへの期待

自分の考え方や行動に不安を感じ、他へ依存しながら、周りとかかわりをもとうとしている。

2 気の合う仲間とのかかわり

行動の仕方や好み等、気の合う仲間とグループをつくり、行動を共にする中で、仲間意識を強くしている。

3 異なる考え方の仲間とのかかわり

係や当番等、活動の目的をもった小集団を学級の話合いを通してつくり、その活動の中で人間関係を広げている。

4 学級全体の仲間とのかかわり

学級担任の指導を基に、自分たちの生活から学級の問題を発見し、主体的に解決しようとしている。

5 学級全体への積極的なかかわり

学級の問題を発見し、その問題の原因や本質に気付き、充実した学級にするために積極的に取り組もうとしている。

(2) 望ましい集団活動を進めるための指導

小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成11年5月 文部省）では、望ましい集団活動の展開について、「望ましい集団活動とは、児童の発達段階や特性、あるいは、それぞれの集団の構成の時期などによってとらえられなくてはならないが、一般的に、次のような条件をもつものと考えられる。

ア 活動の目標を全員でつくり、その目標について全員が共通の理解をもっていること

イ 活動の目標を達成するための方法や手段などを全員で考え、それを協力して実践すること

ウ 一人一人が役割を分担し、その役割を全員が共通に理解していること

エ 一人一人の自発的要求が尊重され、互いの心理的な結び付きが強いこと

オ 成員相互の間に所属感や所属意識、連帯感や連帯意識があること

カ 集団の中で、自由な相互交渉が助長されるようになっていること

一般的に、児童が自発的に集団をつくったり、その集団活動を行ったりする場合にも、以上のような活動の条件を幾つかもつようになるが、特別活動のそれぞれの集団活動を行う場合には、特に以上のような集団活動の条件を備えた望ましい集団活動が行えるよう教師による適切な指導が大切になる。」と示している。

このことを基に、本研究では、個の集団とのかかわりとして、次の6段階に整理し、学級集団の発達段階に応じて個の集団とのかかわり方には高まりがあるととらえた。そして、望まし

い人間関係の育成において、個の集団とのかかわりの観点を踏まえながら集団の姿を明らかにしていくこととした。

I 目標の設定

仲間と活動の目標を考え、決まった目標を理解する。

II 方法・手段の決定

仲間と活動の目標を達成するための方法や手段を考える。

III 役割の分担と実践

仲間との活動の中で自分の役割をもち、他の人の役割も理解しながら、協力して実践する。

IV 相互の認め合い

相手の考えや意見を認める。

V 所属感・連帯感の高まり

集団に対して所属感や所属意識、連帯感や連帯意識が高まる。

VI 相互の尊重

相手を尊重し、支えていく態度や行動をとる。

(3) 学級集団の状態に応じた児童・生徒の様子と指導のポイントの作成（図1、図2参照）

以上の基礎研究を踏まえ、「学級集団の状態に応じた児童・生徒の様子と指導のポイント」（図1参照）を作成した。横軸に学級集団の状態の5段階、縦軸に個の集団とのかかわりの6段階を位置付けた。表では、個の集団とのかかわりの段階ごとに、学級集団の状態に応じた「児童・生徒の様子」の例と「指導のポイント」を示した。

① 資料作成の目的

学級担任が、担当する学級集団の状態を的確に把握し、学級集団の状態に応じて、集団や個に対する適切な指導を進めるための指導の充実に資する。

② 各項目の内容

「学級集団の状態」と「個の集団とのかかわり」の段階を踏まえ、表の上段には、「児童・生徒の様子」を例示している。学級集団の望ましい人間関係の育成に向けた課題と、目標とする状態が明確になるようにし、指導の振り返りに生かすことができるようにした。

下段には、上段に示した「児童・生徒の様子」を踏まえ、「学級集団の状態」や「個の集団とのかかわり」を高めるために気付かせたいこと等を「指導のポイント」として示し、指導計画の作成に生かすことができるようにした。なお、「指導のポイントを踏まえた小学校及び中学校における指導例」（図2参照）を参考として掲載した。

③ 本資料を活用する上での配慮事項

ア 集団の発達を踏まえて学級集団の状態を把握し、学級担任が学級集団の指導の方向性を明確にするために活用するものである。

イ 「児童・生徒の様子」及び「指導のポイント」は、例として示している。各学校・学級の課題と実態に応じて活用することが大切である。

ウ 学級集団の発達段階における課題をとらえ、指導のポイントを参考にして指導を進めるとともに、児童・生徒のよさを把握し、そのよさを生かしながら学級集団の

育成を図るようにする。

エ 学級集団は、年間を通して漸進的に成長するものである。学級集団の状態を把握する上で、集団が発達する方向や段階を固定的にとらえず、次の指導の課題や方向性を見いだすために活用することが望ましい。

学級集団の状態に応じた児童・生徒の様子と指導のポイント

学級集団の状態			1 仲間とのかかわりへの期待	2 気の合う仲間とのかかわり	3 異なる考え方の仲間とのかかわり
個の集団とのかかわり			自分の考え方や行動に不安を感じ、他へ依存しながら、周りとかかわりをもとうとしている	行動の仕方や好み等、気の合う仲間とグループをつくり、行動を共にする中で、仲間意識を強くしている	係や当番等、活動の目的をもった小集団を学級の話合いを通してつくり、その活動の中で人間関係を広げている
I 目標の設定	仲間と活動の目標を考え、決まった目標を理解する	児童・生徒の様子	・何気なく窓際にもたたり近くの仲間と話しかけたり、同じ遊びで集まったりしながら周りの仲間の様子や学級の雰囲気をつかっている。	・遊びや部活動、友達等、自分と共通点のある仲間同士で集まり、楽しく活動するための自分たちのルールや目標を決めている。	・係や当番等の活動のために「私語をしない」「仕事をなまけない」等、自分の欲求を抑えながら目標を確認したり提案したりしている。
		指導のポイント	周囲の思いに気付くことができるようにします。	仲間と考え方を共有できるようにします。	活動の目標を明確にできるようにします。
II 方法・手段の決定	仲間と活動の目標を達成するため	児童・生徒の様子	・個々に目標に向けた行動をとりながら、積極的に自分の考えを発言している仲間注目して、考え方に同調したり行動の仕方を参考にしたりしている。	・仲間がどのような価値観や願いもっているのか考えながら、よりよい活動するための方法を考えるとともに、仲間の意見から決まったルールを守りながら行動している。	・グループの仲間との人間関係を気に違いないが、設定した目標や達成手段がグループに合っているのかを考え、よりよい活動ができるよう話し合っている。

図1 学級集団の状態に応じた児童・生徒の様子と指導のポイント（抜粋）

指導のポイントを踏まえた小学校及び中学校における指導例

学級集団の状態			1 仲間とのかかわりへの期待	2 気の合う仲間とのかかわり	3 異なる考え方の仲間とのかかわり
個の集団とのかかわり			自分の考え方や行動に不安を感じ、他へ依存しながら、周りとかかわりをもとうとしている	行動の仕方や好み等、気の合う仲間とグループをつくり、行動を共にする中で、仲間意識を強くしている	係や当番等、活動の目的をもった小集団を学級の話合いを通してつくり、その活動の中で人間関係を広げている
I 目標の設定	仲間と活動の目標を考え、決まった目標を理解する	小学校	・仲間づくりのきっかけをつかめるように、休み時間等に学級全体に声をかけ、グループを組んで遊べるように促したり、学級活動等で自己紹介をさせたりします。	・だれにとっても受け入れられる遊びや行動のきまりを作ることができるように、学級担任と一緒にグループの遊びや活動に入り、互いの気持ちを考えさせます。	・目標をもって活動できるように、係や当番等の活動を振り返り、仲間と協力したことや成果を認めるとともに、共に活動することで達成可能な課題を与えます。
		中学校	・学校生活への希望を抱くことができるように、学級担任の希望や願いを話し、一人一人の生徒に自分と学級集団のかかわりや成長の姿を気付かせます。	・多くの友達と目標を共有して活動することの価値を理解できるように、学級活動等で友達とのかかわりの中で個人が成長していくことを話したり考えさせたりします。	・それぞれの活動の学級や自分にとっての価値に気付くことができるように、帰りの会等で学級における役割や一人一人の成長等を振り返らせ、集団活動の目標をもたせます。
II 方法・手段の決定	仲間と活動の目標を達成するための方法や手段を考える	小学校	・学級の生活への期待をもつことができるように、一年間の抱負や学級の活動目標等について話し合う機会を設定し、様々な考え方があふれるようにします。	・解決方法を自分たちで考えることができるように、道徳の時間等で、よりよい友達同士の関わり方を考えさせ、だれもが納得できる目標の大切さを理解させます。	・様々な考え方を生かして問題の解決に向けた方法を見付けることができるように、係活動等の活動と結果について互いに発表させながら、協力してできる方法を考えさせます。
		中学校	・仲間と一緒に解決していく気持ちをもつことができるように、学級での活動目標を具体化させ、その解決のために仲間との協力が必要に気付かせます。	・だれもが納得する方法を見出すことができるように、「友達」の存在や価値について考えさせ、問題解決のためには様々な考え方が大切であることを理解させます。	・よりよい学級をつくるための方法を考えることができるように、学級集団の活動に必要な係やルール、活動方法などを様々な考え方のよさを基に話し合わせます。

図2 指導のポイントを踏まえた小学校及び中学校における指導例（抜粋）

2 調査研究

(1) 調査概要

① 目的

「人権教育に関する研究」の資料作成に生かすために、都内公立小・中学校及び都立高等学校の学級担任の児童・生徒の望ましい人間関係の育成を図るための学級集団の指導の状況について把握する。

② 調査内容・方法

学級集団の指導の状況について、「学級集団の状況」「指導の工夫」等、合計7設問についてマークシート方式による質問紙法で調査を行った。

③ 調査時期

平成19年10月から11月

④ 調査対象及び回収数（回収率）

	都内公立小学校	都内公立中学校	都立高等学校	合 計
学級担任	535 名	610 名	491 名	1,636 名（82.1%）

(2) 調査結果

① 児童・生徒に身に付けさせたいこと（図3参照）

学級担任が、児童・生徒の望ましい人間関係の育成を図るために、身に付けさせたいことについて、当てはまるもの3点を9項目から選ぶ方法で調査した。

小学校では、「相手の立場を理解し、共感すること」及び「集団活動に参加し、協力し合うこと」の2項目が、児童に身に付けさせたいこととして高い割合となっている。

中学校では、小学校の2項目に加えて「正義感や規範意識をもつこと」と「係や当番の仕事等に責任感をもつこと」が生徒に身に付けさせたいこととして高い割合となっている。

高等学校では、「集団活動に参加し、協力し合うこと」と「係や当番の仕事等に責任感をもつこと」「様々な考えを基にして自分で判断すること」が生徒に身に付けさせたいこととして高い割合となっている。

以上のことから、学級担任は、望ましい人間関係の育成を図るために、小学校では協調性を、中学校では自立性を、高等学校では主体性を身に付けさせたいと考えていることが分かる。

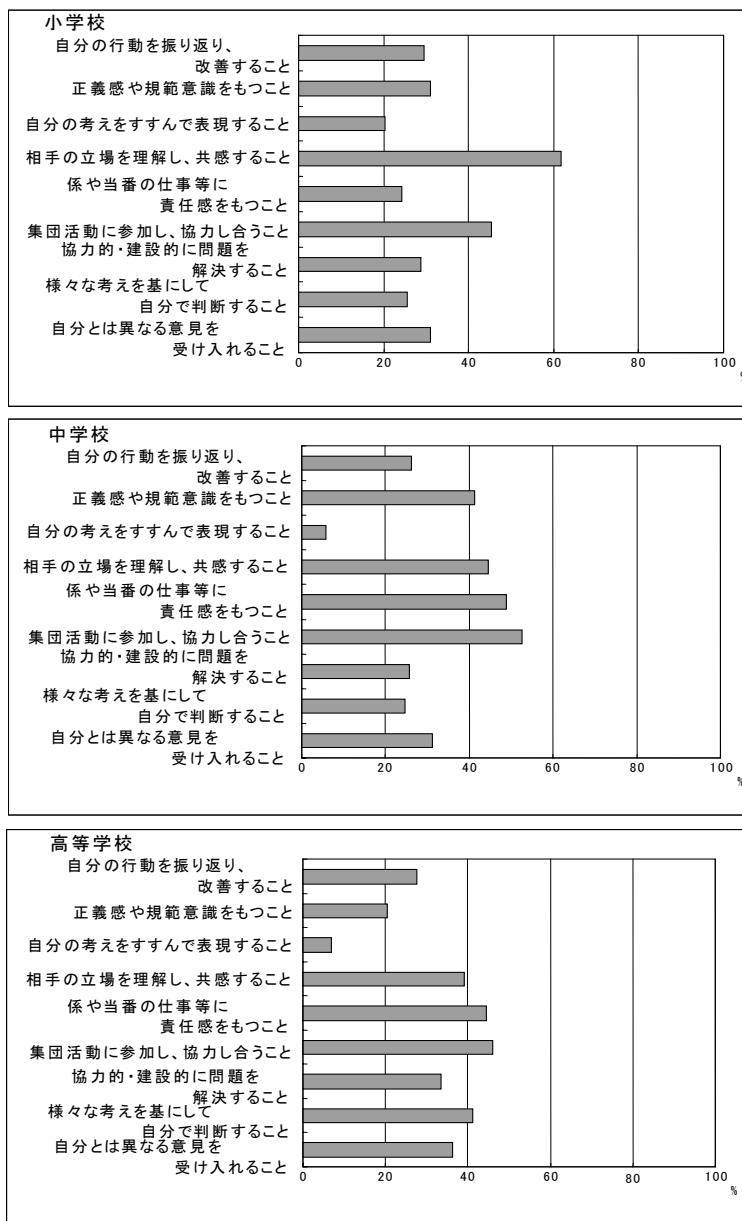


図3 児童・生徒に身に付けさせたいこと

② 指導で重視していること（図4参照）

学級担任が、児童・生徒の望ましい人間関係の育成を図るための指導として重視していることについて、4件法（4：とても重視している 3：どちらかという重視している 2：どちらかという重視していない 1：重視していない）で調査した。

小学校では、「体験活動を通して、多くの仲間とかわること」「学級のルールを守ること」「互いの考えや意見を認め合うこと」「集団の中で一人一人の役割を果たすこと」

「活動の目標を明確にすること」
「学級の問題を話し合いで解決すること」の6項目が、指導で重視してしていることとして割合が高くなっている。

中学校では、「学級のルールを守ること」「互いの考えや意見を認め合うこと」「集団の中で一人一人の役割を果たすこと」が、指導で重視していることとして割合が高くなっている。

高等学校では、中学校と同じく「学級のルールを守ること」「互いの考えや意見を認め合うこと」「集団の中で一人一人の役割を果たすこと」が、指導で重視していることとして割合が高くなっている。

このことから、望ましい人間関係の育成を図るための指導で重視していることとして、校種による違いは、ほとんど見られなかったが、小学校では、集団の活動を中心とした指導が重視されていることが分かる。

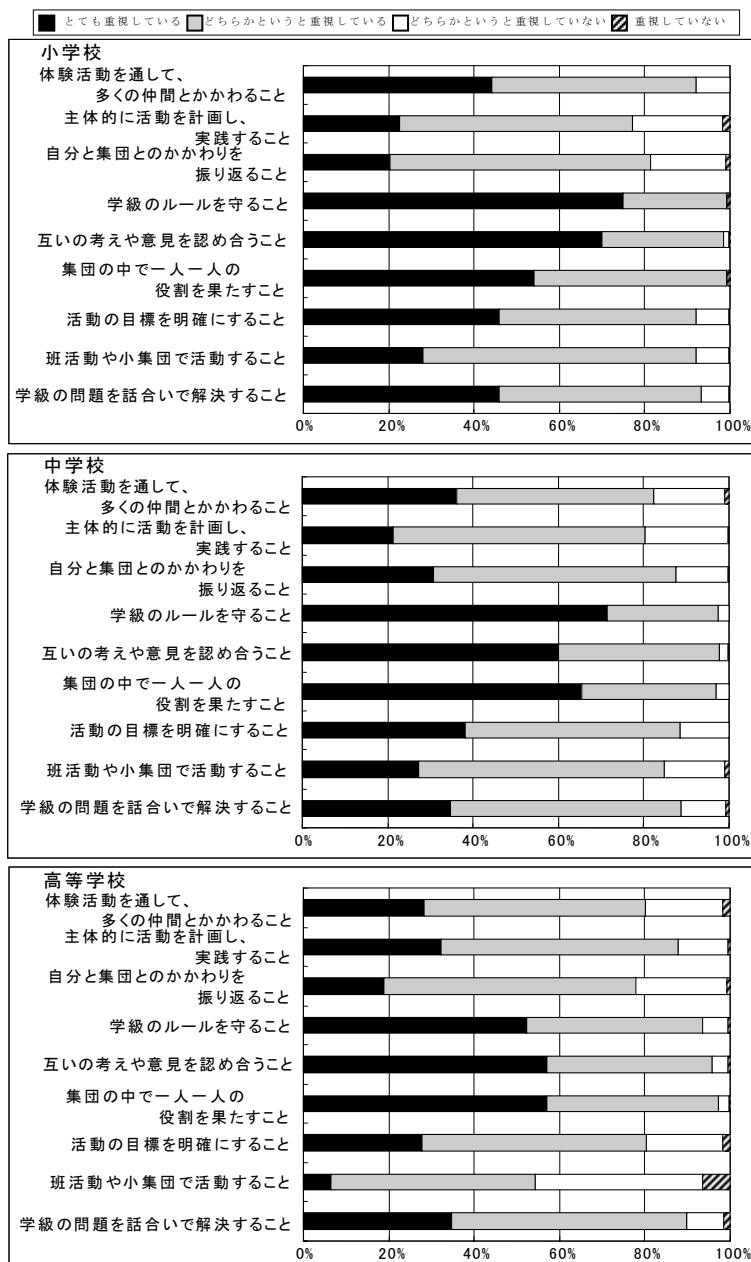
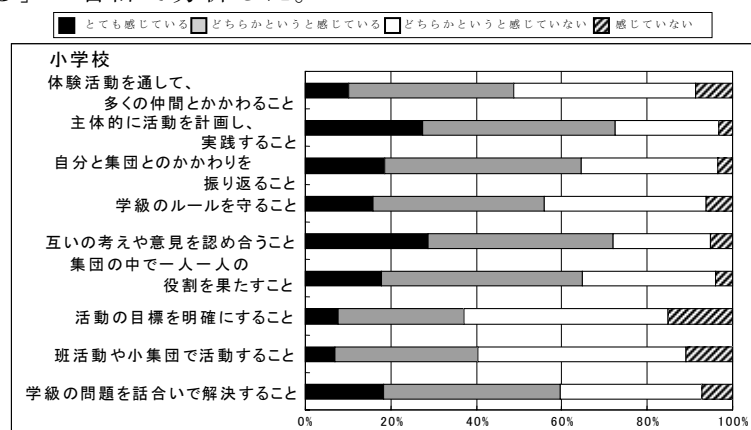


図4 指導で重視していること

③ 指導で困難を感じていること（図5参照）

学級担任が、児童・生徒の望ましい人間関係の育成を図るための指導として困難を感じていることについて、4件法（4：とても感じている 3：どちらかというと感じている 2：どちらかというと感じていない 1：感じていない）で調査した。「とても感じている」「どちらかというと感じている」の合計で分析した。

小学校では、指導で困難を感じていることとして「主体的に活動を計画し、実践すること」「自分と集団とのかかわりを振り返ること」「互いの考えや意見を認め合うこと」「集団の中で一人一人の役割を果たすこと」が高い割合となっている。



中学校では、指導で困難を感じていることとして「主体的に活動を計画し、実践すること」「自分と集団とのかかわりを振り返ること」「互いの考えや意見を認め合うこと」「学級の問題を話し合いで解決すること」が高い割合となっている。

高等学校では、指導で困難を感じていることとして「主体的に活動を計画し、実践すること」「自分と集団とのかかわりを振り返ること」「学級の問題を話し合いで解決すること」が高い割合となっている。

以上のことから、どの校種においても、学級担任は「主体的に活動を計画し、実践すること」及び「自分と集団とのかかわりを振り返ること」について、指導上の困難を感じていることが分かる。

④ 目指す学級集団（図6参照）

学級担任が、児童・生徒の望ましい人間関係の育成を図るために、児童・生徒にとってどのような学級集団となることを目指しているかについて、当てはまるもの3点を8項目から選ぶ方法で調査した。

小学校では、「学習活動や学校行事など様々な活動に、目標をもって取り組む集団」「各自が学級内の役割を果たし、存在感を発揮している集団」「互いに共感し合い、思いやりのある集団」が高い割合となっている。

中学校では、「学習活動や学校行事など様々な活動に、目標をもって取り組む集団」「各自が学級内の役割を果たし、存在感を発揮している集団」「互いに共感し合い、思いやりのある集団」が高い割合となっており、小学校と同じ傾向を示している。

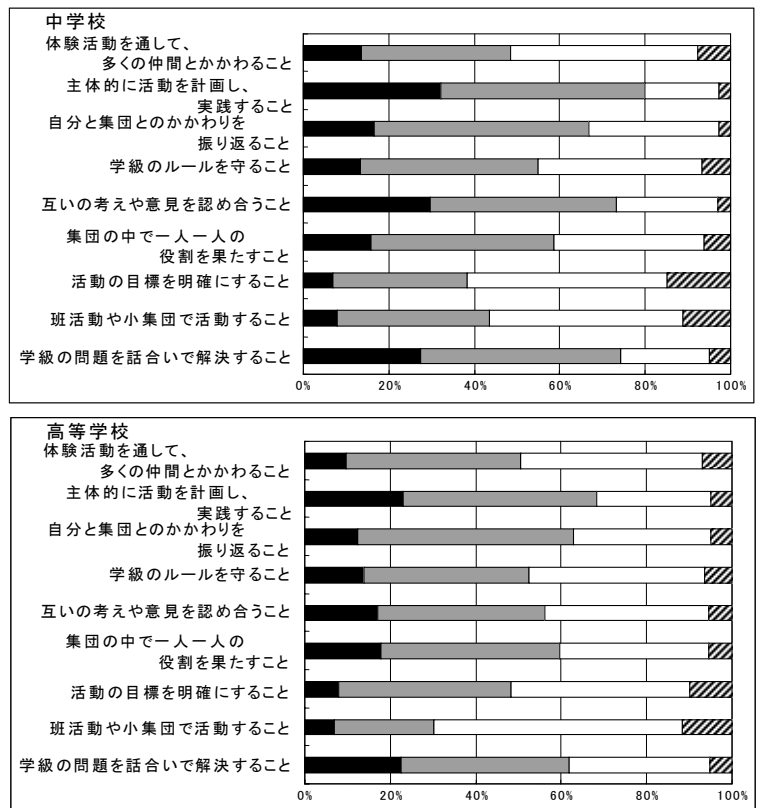
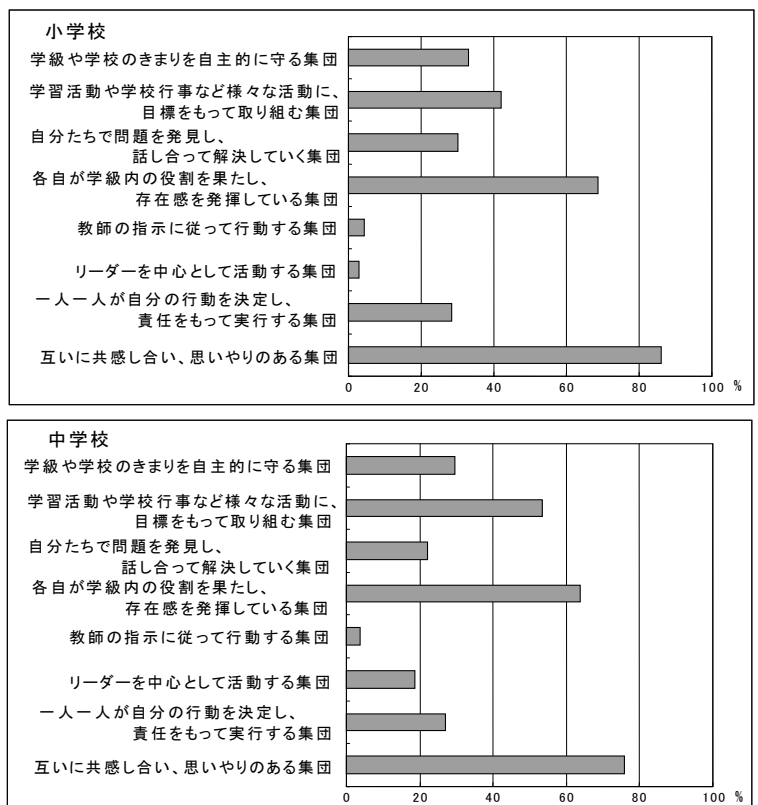


図5 指導で困難を感じていること



高等学校では、小学校及び中学校と同じく、「学習活動や学校行事など様々な活動に、目標をもって取り組む集団」「各自が学級内の役割を果たし、存在感を発揮している集団」「互いに共感し合い、思いやりのある集団」の3項目が高い割合を示している。さらに、小学校及び中学校と比べて「一人一人が自分の行動を決定し、責任をもって実行する集団」の項目についての割合が高くなっていることが分かる。

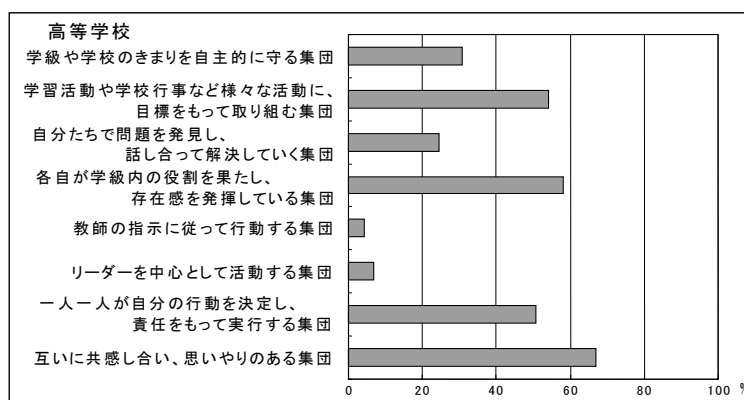


図6 目指す学級集団

以上のことから、目指す学級集団については、どの校種においても同じ傾向が見られ、高等学校の学級担任は、主体性を発揮できる集団の育成も重視していることが分かる。

⑤ 4月と9月の児童・生徒の様子（表1、2参照）

4月と9月の児童・生徒の様子について、4件法（4：とても見られた 3：どちらかというで見られた 2：どちらかというで見られなかった 1：見られなかった）で調査した。「とても見られた」「どちらかというで見られた」を合わせた割合について、4月から9月にかけての伸びが顕著であったものを上位から5項目ずつ整理した。（表1）

小学校では「学級における自分の役割を自覚して活動する。」「何らかのトラブルが起こっても、話し合って解決できる。」「互いの意見や考えの違いを尊重し合う。」「自らの行動を決断し、責任をもって実行する。」「学級の目標を意識しながら行動する。」の5項目について、4月から9月にかけて児童の様子が大きく変容していると学級担任がとらえていることが分かる。

中学校では、「何らかのトラブルが起こっても、話し合って解決できる。」「互いの意見や考えの違いを尊重し合う。」等については、小学校と同じように学級担任は生徒が変容しているととらえていることが分かる。また、「失敗した児童・生徒を励ましたり、支えたりする。」ようになっていると感じていることも分かる。

高等学校では、小学校と中学校と同じ傾向が見られるが、特に「自分の考えをすすんで表現する。」及び「集団活動に積極的に取り組む。」について、4月に比べて9月は生徒が大きく変容していると学級担任がとらえていることが分かる。

このことから、4月から9月の間に児童・生徒の人間関係が広がり、互いに尊重し合いながら活動することができるようになっていくとともに、「学級における自分の役割を自覚して活動する。」等、一人一人が学級の一員としての自覚をもって行動するようになっていることが分かる。

一方、4月から9月の伸びが最も小さかった項目は、「グループ同士の対立がある。」であった。この結果は、全校種共通しており、高等学校では、その伸びがマイナスの値となった（表2）。他の項目に比べて、指導による改善が難しいと学級担任が感じていたり、学期が進むにしたがって、児童・生徒の人間関係に新たな課題が生じたりしていることが

推測される。

表1 4月と9月の児童・生徒の様子

	項 目	4 月	9 月	4 月から9月の伸び
小学校	1 学級における自分の役割を自覚して活動する。	35.3%	75.5%	40.2%
	2 何らかのトラブルが起こっても、話し合って解決できる。	38.9%	77.4%	38.5%
	3 互いの意見や考えの違いを尊重し合う。	36.6%	74.2%	37.6%
	4 自らの行動を決断し、責任をもって実行する。	26.2%	63.6%	37.4%
	5 学級の目標を意識しながら行動する。	32.0%	64.5%	32.5%
中学校	1 何らかのトラブルが起こっても、話し合って解決できる。	36.6%	65.9%	29.3%
	2 互いの意見や考えの違いを尊重し合う。	42.1%	68.0%	25.9%
	3 自らの行動を決断し、責任をもって実行する。	42.0%	67.9%	25.9%
	4 学級における自分の役割を自覚して活動する。	56.7%	79.5%	22.8%
	5 失敗した児童・生徒を励ましたり、支えたりする。	50.8%	73.6%	22.8%
高等学校	1 自分の考えをすすんで表現する。	33.6%	58.5%	24.9%
	2 集団活動に積極的に取り組む。	57.8%	78.2%	20.4%
	3 失敗した児童・生徒を励ましたり、支えたりする。	57.8%	76.6%	18.8%
	4 学級における自分の役割を自覚して活動する。	59.7%	78.0%	18.3%
	5 何らかのトラブルが起こっても、話し合って解決できる。	54.2%	72.1%	17.9%

表2 4月と9月の児童・生徒の様子「グループ同士の対立がある」

	4 月	9 月	4 月から9月の伸び
小学校	18.9%	12.9%	6.0%
中学校	23.3%	23.1%	0.2%
高等学校	12.2%	12.8%	-0.6%

(3) 調査結果の考察

調査結果から、学級担任の児童・生徒の望ましい人間関係の育成を図るための指導の状況として、次のようなことが分かった。

- ① 目指す学級集団としては、「様々な活動に目標をもって取り組む」「各自が役割を果たし、存在感を発揮している」「互いに共感し合い、思いやりがある」集団である。
- ② 指導として重視していることは、「相手に対して共感する心や協力する態度の育成」「規範意識の向上、相互の認め合い、自己の役割の遂行」である。
- ③ 学級担任は、「主体的な活動をさせること」「集団とのかかわりを振り返らせること」の指導の工夫が必要であると感じている。

3 開発研究

(1) 学級経営における道徳の時間及び特別活動の指導上の課題

平成19年度「教育課程の編成・実施状況」（平成19年11月 東京都教育委員会）では、「学校教育目標の設定に当たり、特に重視した内容」として、小学校、中学校ともに「思いやりの心」「豊かな人間性」を回答した割合が約80%となっており、学校として児童・生徒の望ましい人間関係を育成することを重視していることが分かる。

また、道徳における「指導の重点」の内容として最も重視した内容として、「道徳的心情、判断力等、道徳的実践力を育成する指導」「豊かな人間性、社会性を育成する指導」「豊かな人間関係をはぐくむ指導」が小学校、中学校ともに高い割合を示している。同じく、特別活動においても「集団の一員としての自覚を促す指導」「自主的、実践的な態度を育成する指導」がともに高い割合を示している。このことから、道徳及び特別活動を通して、人間性や社会性

に必要な力を身に付けさせたいと考えている状況が明らかになった。

しかし、「他の教育活動との関連を図った指導」については、小学校、中学校ともに低い割合となっており、道徳の時間や特別活動においても関連を図った指導に課題が見られた。

そこで、日常の指導において、学級担任が学級集団の状態を把握し、望ましい人間関係の育成を図るための指導を充実させるために、道徳の時間及び特別活動の中で、学級という場を中心として行われる活動である学級活動等を関連付けた指導計画を開発することが必要であると考えた。

(2) 指導計画モデルの開発

① 道徳の時間及び学級活動、朝の会・帰りの会の特性等について

ア 道徳の時間の特性

道徳の時間においては、道徳の時間以外における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって、道徳教育の目標を補充、深化、統合し、道徳的価値（中学校では、及び人間としての生き方について）の自覚を深め、道徳的実践力を育成することが目標としてあげられている。

しかし、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」において、道徳の時間の課題として、

- ・ その指導が形式化して実効が上がっていないとの指摘や、学年が上がるにつれて子どもの受け止めがよくない。
- ・ 学校や学年の段階等を踏まえた道徳教育の重点が見えにくく、教育活動全体を通じた指導や、道徳の時間を含めた相互の関連が十分でない、教師が理解しにくいものや指導しにくい内容があるとの指摘がある。

という課題を挙げ、学校全体で取り組む道徳教育の実質的な充実を図る視点から、道徳教育の推進体制等の充実を図ることの重要性を挙げている。

イ 学級活動の特質

特別活動は、望ましい集団活動を通して、個性の伸長と豊かな人間性の育成を目指すとともに、学級や学校生活への適応や望ましい人間関係の形成という学校生活の充実に欠かせない教育活動であり、集団や社会の一員としての自覚と責任感を深め、社会性の育成の一層の充実を図ることが重要な役割である。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」において、特別活動の改善の基本方針の中で「道徳や総合的な学習の時間などとの有機的な関連を図ったり、指導方法や教材を工夫したりすることが必要である。」と述べ、特別活動における指導の改善を求めている。

なお、学級活動においては、小学校学習指導要領解説 特別活動編 A 学級活動(2)「日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関すること。」及び、中学校学習指導要領解説－特別活動編－A 学級活動(2)「個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること。」で、「望ましい人間関係の育成（確立）」を挙げ、様々な人間関係の経験をしたり振り返りをしたりしながら、望ましい人間関係を確立していくことのできる態度や能力を養うことの大切さを述べている。

ウ 「朝の会」「帰りの会」の時間について

中学校学習指導要領解説－特別活動編－では、「指導計画の作成と内容の取扱い」の中で、「朝の会」や「帰りの会」については、「学級ごとに時間が設定されている場合も少なくなく、また、その教育的効果も高い」「これらの時間における指導は、学級活動と密接な関連をもっている」と示している。

また、中学校学習指導要領解説－道徳編－では、「朝や帰りの学級の時間は、生徒相互及び生徒と教師との人間関係を深められる時間であり、道徳性の育成にとっても大きな役割を果たす」とし、道徳の時間との関連を図った指導の工夫の必要性を述べている。

以上のことから、集団活動を通して、集団と自分とのかかわりを意識し、コミュニケーション能力や自己表現力等の人間性や社会性を育てていく特別活動及び一人一人の道徳的価値観や道徳的実践力の育成を図る道徳の時間と朝の会・帰りの会を関連付けて指導を進めることが、児童・生徒の望ましい人間関係の育成を図る上で有効であると考えた。

② 開発の視点

①を踏まえ、下記の指導計画モデル（図7参照）の開発を以下の視点から進めた。

指導計画モデル(1週間)

指導目標					
指導のポイント					
	第1日(月曜日)	第2日(火曜日)	第3日(水曜日)	第4日(木曜日)	第5日(金曜日)
朝の会 ・活動目標、活動予定等の確認 ・活動意欲の喚起 ・道徳の時間や学級活動の内容を踏まえた活動の意欲付け	<1週間を通して、意識させたり、継続して行動させたいこと>	<第1日の生活を踏まえて意識させたいこと>	<2日間の生活を踏まえて意識させたいこと>	<3日間の生活を踏まえて意識させたいこと>	<1週間のまとめとして意識させたいこと>
○道徳の時間や学級活動との関連	・道徳の時間や学級活動で取り上げる内容にかかわる行動のめあてを伝えたり、関連した日常生活の出来事等を意識させたりする。				
道徳の時間 ・各教科、特別活動等における道徳教育の補完、深化、統合 ・道徳的価値の自覚を深める ・人間としての生き方についての自覚を深める ・道徳的実践力の育成	<指導目標や指導のポイントを踏まえた指導のねらい> <学習活動・指導方法や活用資料等> 【指導方法例】 ・道徳的なものの見方や考え方を深める話し合い ・日常生活における身近な話題等の教師の話し ・道徳的な心情を豊かにする読み物及び視聴覚機器の利用 ・主体的に道徳の実践力を身に付ける動作化、役割演技等の活動等				
○道徳の時間と学級活動の関連	・道徳の時間での指導が学級活動における具体的な活動場面の中に生かされ、具体的な実践や実践の方法についての学習を行う。 ・学級活動における様々な活動において経験した道徳的行為や道徳上の事例について、道徳の時間にそれらを位置付けて取り上げ、学級全体でその道徳的意義を考えられるようにし、道徳的価値として自覚できるようにしていく。				
学級活動 ・自主的、実践的な活動 ・学級や学校生活の充実と向上させるための活動 ・学級生活や学習への適応を図る活動 ・学校における諸問題を解決し、活動を計画し、実践していく活動	<指導目標や指導のポイントを踏まえた指導のねらい> <学習活動・指導方法や活用資料等> 【学習活動例】 ・読み物資料やビデオ教材を活用した話し合い活動 ・互いのよさを見付け合う活動 ・学級の問題を話し合う活動 ・適切で豊かなコミュニケーションを図るための活動等				
帰りの会 ・活動の振り返り ・目標や課題等の確認、集約 ・活動意欲の喚起 ・道徳の時間や学級活動の内容を踏まえた日常生活の振り返り	<第1日の行動について振り返らせたり、気付かせたりしたいこと>	<2日間の行動について振り返らせたり、気付かせたりしたいこと>	<3日間の行動について振り返らせたり、気付かせたりしたいこと>	<4日間の行動について振り返らせたり、気付かせたりしたいこと>	<1週間の行動について振り返らせたり、気付かせたりしたいこと>
○道徳の時間や学級活動との関連	・道徳の時間や学級活動で学んだことを踏まえて、1日の行動を振り返ったり、気付いたことを発表し合ったりする。				

図7 指導計画モデル

ア 道徳の時間及び学級活動、朝の会・帰りの会を関連付けた計画とする

集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする態度を育成するとともに、集団活動を通して、集団と自分とのかかわりを意識し、コミュニケーション能力や自己表現力等、人間性や社会性を育てていく学級活動と自分を大切にすること、他者を大切にすること、生命を尊重することといった一人一人の道徳的価値観や道徳的実践力の育成を図る道徳の時間とを関連付けた指導を核とする。さらに、朝の会・帰りの会と関連付けて指導を進めることで、学級活動及び道徳の時間における学びが、毎日

の生活を振り返ることを通して、具体的な実践に結び付けられ、児童・生徒の望ましい人間関係の育成を効果的に行うことができると考えた。

イ 1週間の指導計画モデルを示す

道徳の時間及び学級活動、朝の会・帰りの会を関連付けた指導計画を作成するためには、それぞれの時間が1単位時間以上確保されている1週間を基準として考えた。1週間を基本のモデルと示すことで、2週間以上の期間の場合でも、基本の計画を繰り返す等、ねらいを明確にした指導を継続していくことができることにおいても有効であると考えた。

③ 指導計画モデルを活用する上での配慮事項

ア 各学校の人権教育の年間指導計画等に照らしながら、見通しをもって取り組むことが望ましい。そのためにも、それぞれの時間のねらいや意義について十分理解した上で活用することが重要である。

イ 指導計画モデルは、人権課題を取り上げた指導においても活用できるように作成した。学校や学級・地域の実態に応じて、同和問題をはじめ様々な人権課題にかかわる差別意識の解消を目指す個別的な視点からの取組において活用することも有効である。

ウ 人権教育の視点に基づいた指導を進めるために、児童・生徒が主体的に授業に参加できるような指導方法の工夫や改善が必要である。そこで、指導計画を立てる上で、「協力し合う学習」「主体的に参加する学習」「体験活動を取り入れた学習」等を重視して取り入れることが重要である。

④ 開発資料の活用方法

「学級集団の状態に応じた児童・生徒の様子と指導のポイント」及び「指導計画モデル」を活用するに当たって、次のような手順を進めることが望ましい。

- i 「学級集団の状態に応じた児童・生徒の様子と指導のポイント」を基に、学級集団の状態を横軸、個の集団とのかかわりを縦軸からとらえ、児童・生徒の様子を確認し、指導目標を記入する。
- ii 「学級集団の状態に応じた児童・生徒の様子と指導のポイント」を基に、指導のポイントを確認し、指導の方向性を明確にした上で、指導計画に記入する。
- iii 指導目標と指導のポイントを踏まえ、道徳の時間及び学級活動のねらいや指導内容について、各時間の指導の関連を明確にする。
- iv 朝の会・帰りの会について、日常生活や学級集団とのかかわり等について意識付けさせたいことや振り返らせたいことを、道徳の時間や学級活動で学習する内容を踏まえて、各時間の指導の関連を明確にする。
- v 必要に応じて、「心のノート」や読み物資料、自作教材等を活用したり、体験活動を取り入れたりする等、指導を工夫する。
- vi 1週間の各時間の指導の関連を確認し、指導計画を基にねらいを明確にして指導を行う。
- vii 指導後、「学級集団の状態に応じた児童・生徒の様子と指導のポイント」を基に、学級集団の状態や児童・生徒の様子の変容を確認し、指導を評価し、改善を図る。

(3) 教材の開発と活用

① 目的

学習したことを日常生活と関連付けながら振り返り、次の時間における目標設定や意識を高めることができるようにする

② 開発及び活用の視点

教材の開発を進めるに当たって、以下の視点をもって取り組んだ。

ア 掲示等が可能であり、教室環境の整備につながること

イ 児童・生徒が学んだことや考えたことの成長を振り返ることができること

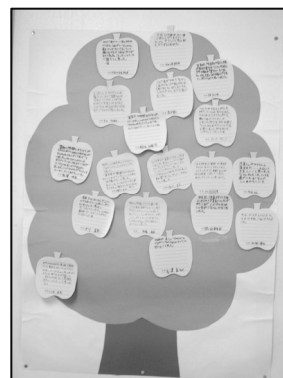
ウ 学級集団の状態や指導内容に応じて、項目等を工夫できること

③ 開発及び活用教材

ア 「思いやりの木」(図ア参照)

毎日、カードに1日の学級生活における行動や考えたこと等を書き、木の形をした画用紙に貼り付けていく。

木を複数用意することで、「自分ができたこと」や「してもらってうれしかったこと」等、児童に気付かせたい内容ごとにカードを貼ることができるようにした。貼られたカードの種類や枚数の変化、記述内容によって、児童の気付きの広がりや深まりをとらえることができる。



図ア

イ 「心のノート」(文部科学省)

道徳の時間の指導目標に応じて、関連する内容を取り上げて、内容を読んで考えさせたり、話し合わせたりする。

(4) 検証授業

① 小学校における検証授業

都内公立小学校の第4学年児童(在籍23名 1学級)を対象に12月4日から7日までの4日間、指導計画モデルに基づいて指導計画を作成し、検証授業を行った。

ア 指導計画の作成に当たって

「学級集団の状態に応じた児童・生徒の様子と指導のポイント」に照らし、係活動や当番等のグループ活動を通して、多くの仲間とのかかわりを広げている状況から、学級集団の発達段階を「異なる考え方の仲間とのかかわり」の段階であるにとらえた。また、一人一人の児童については、互いの考えや意見を認め合うことができるという点から「相互の認め合い」の段階にとらえた。

以上のことから、「他の仲間のよさを理解できるようにする。」ということを指導のポイントとし、指導目標を「思いやりの大切さに気付かせるとともに、よりよい人間関係をつくるために互いのよさを理解できるようにする。」と設定した。

イ 指導計画の作成(図8参照)

各時間の指導及び関連については、次の点を重視して指導計画を作成した。

(ア) 道徳の時間では、相手の行動や気持ちを考えることの大切さを理解させることをねらいとする。

(イ) 学級活動では、自分の気持ちを適切に伝える表現の仕方や相手が心地よく感じる声のかけ方について考えるグループ活動を行う。

(ウ) 朝の会では、「他の人の行動を見付けてみよう」等、学級担任が思いやりの行動にかかわる1日のめあてを伝え、児童が学校生活の中で意識をもって行動できるようにし、帰りの会では、「できたこと」や「感じたこと」等、1日の生活の中での行動の振り返りを行うようにする。このことにより、道徳の時間や学級活動で学んだことを、日々の行動や気付きに繰り返し結び付けるようにする。また、互いに報告し合うことで、自分の行動に自信をもてるようにするとともに、互いの行動を認め合うことができるようにする。

ウ 教材の活用

児童が学んだことや行動したことを振り返ったり、互いに認め合ったりすることができるよう、「思いやりの木」の教材を活用し、カードに記述したことを毎日、「思いやりの木」に貼っていった。

小学校における指導計画

指 導 目 標	思いやりの大切さに気付かせるとともに、よりよい人間関係をつくるために互いのよさを理解できるようにする。				
指導のポイント	他の仲間のよさを理解できるようにする。				
	第1日(火曜日)	第2日(水曜日)	第3日(木曜日)	第4日(金曜日)	
朝の会 ・活動目標、活動予定等の確認 ・活動意欲の喚起 ・道徳の時間や学級活動の内容を踏まえた活動の意欲付け	＜ねらい＞ ・「心のノート」を活用し、「思いやり」とは何か考え、活動のめあてをもつ。	＜ねらい＞ ・「してもらってうれしかったこと」を振り返り、相手の気持ちを考えて行動することの大切さに気付く。	＜ねらい＞ ・今までの出来事を思い出し、思いやりは周りの人にとってもうれしいものであることに気付く。	＜ねらい＞ ・今までの思いやりの行動を思い出し、行動したり見付けたりするめあてをもつ。	
○道徳の時間や学級活動との関連	・思いやりの行動にかかわる1日のめあてを伝える。				
道徳の時間 ・各教科、特別活動等における道徳教育の補充、深化、統合 ・道徳的価値の自覚を深める ・人間としての生き方についての自覚を深める ・道徳的実践力の育成			＜ねらい＞ ・相手の行動や気持ちを考えることの大切さを理解する。 ＜学習活動＞ ・読み物資料の活用 ＜時間＞ ・5校時		
○道徳の時間と学級活動との関連	・道徳の時間で相手の行動や気持ちを考えることの大切さを理解したことを、学級活動におけるグループ活動に生かし、自分の気持ちを適切に伝える表現の仕方等について学ぶ。				
学級活動 ・自主的、実践的な活動 ・学級や学校生活の充実と向上させるための活動 ・学級生活や学習への適応を図る活動 ・学校における諸問題を解決し、活動を計画し、実践していく活動				＜ねらい＞ ・自分の気持ちを適切に伝える表現の仕方や相手が心地よく感じる声のかけ方を理解する。 ＜学習活動＞ ・グループ活動を中心とした学習活動 ＜時間＞ ・2校時	
帰りの会 ・活動の振り返り ・目標や課題等の確認、集約 ・活動意欲の喚起 ・道徳の時間や学級活動の内容を踏まえた日常生活の振り返り	＜ねらい＞ ・今までの行動や今日1日の思いやりの行動でできたことを発表し、その時の気持ちを振り返る。	＜ねらい＞ ・「してもらってうれしかったこと」を振り返り、相手にとってうれしい行動について考える。	＜ねらい＞ ・周りの行動や出来事で気付いたことを発表し、互いの行動を認め合う。	＜ねらい＞ ・1週間の活動で気付いたことを発表し、一人一人の行動や成長を認め合い、次週以降の意欲をもつ。	
○道徳の時間や学級活動との関連	・1日の生活の中での行動を振り返り、道徳の時間や学級活動で学んだことを実際の行動や気付きに結び付ける。				

図8 小学校における指導計画

エ 検証授業のまとめ

指導による児童の気付き等を「思いやりの木」のカードの記述からとらえ、表3のように整理したことで、次のことが分かった。

(ア) 第1日に合計23枚あったカードが、第4日の38枚まで漸次増加していることから、4日間の継続的な指導によって、児童の「思いやりの行動」に対する意識化を図ることができた。また、1週間の指導を「自分ができたこと」から「周りの人がしていたこと」を見付けさせる等、行動を見つめる視点を自己から他の友達へと広げるように組み立てたことで、児童は、人とのかかわりの価値や友達のよさに気付きを広げていくことがで

きた。

- (イ) 第1日は、思いやりの行動に対する気付きが、児童一人当たり約1枚の記述であったが、第4日は約1.7枚の記述となっていることから、指導の積み重ねによって、友達の言葉や態度から思いやりを感じ、相手の気持ちを受け止めることができるようになる等、児童は、多様な思いやりの行動に気付くことができるようになった。
- (ウ) 第4日には、「自分ができたこと」や「してもらってうれしかったこと」等がバランスよく記述されていることから、児童の人とのかかわりの視点が広がってきたことが分かった。

表3 「思いやりの木」に貼られたカードの枚数と記述の分類

カードの内容分類 指導内容	物を通して 思いやり	言葉や態度での 思いやり	思いやりを 受けた喜び	友達の 学びたい行動	計
第1日 「自分ができたこと」	18	3	2	0	23
第2日 「してもらってうれしかったこと」	1	0	22	3	26
第3日 「周りの行動で気付いたこと」	7	12	0	19	38
第4日 「1週間の活動で気付いたこと」	7	9	14	8	38
計	33	24	38	30	

② 中学校における検証授業

都内公立中学校の第1学年生徒（在籍33名 1学級）を対象に11月26日から30日までの5日間、指導計画モデルに基づいて指導計画を作成し、検証授業を行った。

ア 指導計画の作成に当たって

「学級集団の状態に応じた児童・生徒の様子と指導のポイント」に照らし、学級担任の指導によって学級の問題を主体的に解決しようとするところから、学級集団の発達段階を「学級全体の仲間とのかかわり」の段階であるにとらえた。また、一人一人の生徒については、互いの役割を理解しながら協力できることから「役割の分担と実践」の段階にとらえた。

以上のことから、「学級での役割を自覚できるようにする。」ことを指導のポイントとし、指導目標を「学級集団内での自分の役割を考え、よりよい学級とするために行動できるようにする。」と設定した。

イ 指導計画の作成（図9参照）

各時間の指導及び関連については、次の点を重視して指導計画を作成した。

- (ア) 道徳の時間では、読み物資料を活用し、多様な個性を認め互いを尊重すること及び協力し合って集団生活の向上に努めることの大切さに気付かせることをねらいとする。
- (イ) 学級活動では、人権教育ビデオ教材の視聴及びロールプレイを活用し、相手の気持ちを踏まえた上で、学級のだれもが納得する方法を検討することの大切さを理解できるようにする。
- (ウ) 朝の会・帰りの会では「心のノート」を活用し、「学級の中で自分ができること」や「学級の仲間へのかかわり方」等、学級集団と自分とのかかわりを考えさせることを、1週間を通じて繰り返す等、道徳の時間や学級活動との関連及び指導の継続性を重視す

る。

ウ 教材の活用

日常的に「心のノート」を活用し、学級集団と自分とのかかわりを振り返ったり人間関係の在り方等を考えたりできるようにする。また、人権教育ビデオ教材を学級活動で視聴し、その内容を基に話し合い活動を進める。

中学校指導計画

指 導 目 標	学級集団内での自分の役割を考え、よりよい学級とするために行動できるようにする。				
指導のポイント	学級での役割を理解できるようにする。				
	第1日(月曜日)	第2日(火曜日)	第3日(水曜日)	第4日(木曜日)	第5日(金曜日)
朝の会 ・活動目標、活動予定等の確認 ・活動意欲の喚起 ・道徳の時間や学級活動の内容を踏まえた活動の意欲付け	＜ねらい＞ ・相手の立場に立つことの大切さについて考える。	＜ねらい＞ ・「心のノート」を活用し、集団生活の向上のためにできることを考える。	＜ねらい＞ ・「心のノート」を活用し、学級集団内での人間関係の在り方について考える。	＜ねらい＞ ・学級活動の充実のために役割分担を行う。	＜ねらい＞ ・よりよい学級集団をつくるためにできることをカードに書く。
○道徳の時間や学級活動との関連	・道徳の時間や学級活動で取り上げる内容にかかわる意識や行動目標をもったり、集団とのかかわりを考えたりする。				
道徳の時間 ・各教科、特別活動等における道徳教育の補充、深化、統合 ・道徳的価値の自覚を深める ・人間としての生き方についての自覚を深める ・道徳的実践力の育成	＜ねらい＞ ・多様な個性を認め、互いを尊重すること及び協力し合って集団生活の向上に努めること の大切さに気付く。 ＜学習活動＞ ・読み物資料の活用 ＜時間＞ ・1校時				
○道徳の時間と学級活動の関連	・道徳の時間で互いを尊重することの大切さに気付いたことを、学級活動における話し合い活動に生かし、だれもが納得する方法を検討することの大切さを理解する。				
学級活動 ・自主的、実践的な活動 ・学級や学校生活の充実と向上させるための活動 ・学級生活や学習への適応を図る活動 ・学校における諸問題を解決し、活動を計画し、実践していく活動				＜ねらい＞ ・相手の気持ちを踏まえた上で、学級のだれもが納得する方法を検討することの大切さを理解する。 ＜学習活動＞ ・人権教育ビデオ教材の活用 ＜時間＞ ・5校時	
帰りの会 ・活動の振り返り ・目標や課題等の確認、集約 ・活動意欲の喚起 ・道徳の時間や学級活動の内容を踏まえた日常生活の振り返り	＜ねらい＞ ・「心のノート」を活用し、集団の中の役割を振り返り、人の役に立つことについて自分の考えをもつ。	＜ねらい＞ ・「心のノート」を活用し、互いに自分ができることを発表し合い、参考になることを考える。	＜ねらい＞ ・「心のノート」を活用し、一人一人が輝くための人間関係について考え、仲間の大切さに気付く。	＜ねらい＞ ・よりよい学級集団をつくるために、自分ができることを考える。	＜ねらい＞ ・互いの考えを紹介し合い、よりよい学級を作るために大切なことを考える。
○道徳の時間や学級活動との関連	・道徳の時間や学級活動で学んだことについて、今までの活動や1日の行動を振り返ったり、自分の考えを発表したりする。				

図9 中学校における指導計画

エ 検証授業のまとめ

指導による生徒の気づき等をワークシートの記述（表4参照）からとらえ、次のことが分かった。

(ア) 生徒Aの記述について

第2日の帰りの会では、「学級の中で自分ができること」について、第1日の道徳の時間の指導を踏まえて考えさせたところ「いじめが起こったとき、やめさせるように言うこと。」等、問題が起こったときにかかわるといふ姿勢にとどまっていた。また、自分のもつ「よい学級」のイメージと自分の行動が結び付いていない記述であった。

第4日の学級活動で「学級の仲間へのかかわり方」を考えさせたところ、「クラスのみんなで協力していこうと思う。」という記述が見られ、自己を学級の中の一員として意識し始めてきたことが分かった。

第5日には、「自分の意見ははっきりと伝える。」ことの大切さを自覚した記述が見られ、5日間の指導を通して主体性が高まってきたことが分かった。

(イ) 生徒Bの記述について

生徒Aと同様に、第2日の記述では、自分のもつ「よい学級」のイメージと自分の行動が結び付いていない記述が見られた。

第4日の学級活動では、「できないと決め付けたりせずに、仲間として接していきたい。」と記述していることから、孤立しがちな生徒の存在に気づき、学級の一員の「仲間」として接していこうとする気持ちをもったことがうかがわれた。

第5日には、「一人一人の個性を認める」「絆を築き上げ、仲のよい素晴らしいクラスにしたい」と記述し、自身が一人一人を認め、すすんでかかわろうとする姿勢が見られたとともに、自分を含めた学級集団としての目指す姿をもったことが分かった。

以上の生徒Aと生徒Bの記述から、1週間の指導を通して、互いの立場を尊重することや自分の考えを表現すること等、生徒は自己と学級集団とのかかわりを具体的な行動として考えるようになったことが分かった。

表4 生徒の記述

指導内容		生徒A	生徒B
第一日	道徳の時間 「よいクラス」	・みんなと一致団結して、授業中と休み時間を考えて行動するクラス	・自分の意見と他人の意見が取り入れられているクラス
第二日	帰りの会 「学級の中で自分ができること」	・いじめなどが起こったとき、やめるように言うこと。けんかとかで仲裁に入ること。	・すべての問題をクラスみんなの意見で解決させる。
第四日	学級活動 「学級の仲間へのかかわり方」	・意見が違ったときもあると思うけれど、クラスみんなで協力していこうと思う。	・楽しむことや絆を中心に考えて、一緒に活動ができないと決め付けたりせずに、仲間として接していきたい。
第五日	帰りの会 「よりよい学級集団のために自分ができること」	・「自分の意見ははっきりと相手に伝える」ことだと私は思います。	・一人一人の個性を認めて絆というジグソーパズルを築き上げていき、仲のよい素晴らしいクラスにしていきたい。

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 学級集団の状態に応じた指導のポイントの明確化

集団の発達段階を踏まえた学級集団の状態を示し、その状態に応じた適切な指導を進めるための指導のポイントを明確にした。日常の学級経営において、学級担任が資料を基にして、学級集団の状態を的確に把握し、児童・生徒の望ましい人間関係の育成を図るための指導を充実させることができる。

(2) 道徳の時間及び学級活動等を関連付けた指導計画モデルの開発

道徳の時間及び学級活動、朝の会・帰りの会を関連付けた指導を充実させるための指導計画モデルを開発した。道徳の時間及び学級活動における学びを、朝の会・帰りの会において、日常生活や学級集団とのかかわりの中で具体的な実践と結び付け、児童・生徒の望ましい人間関係の育成を効果的に図ることができる。

2 研究の課題

(1) 指導計画モデルの効果的な活用と改善

(2) 学級集団におけるリーダーの役割の明確化とその育成

(3) 学級集団になじみにくい児童・生徒への個に応じた支援の在り方の明確化

参考資料Ⅰ 学級集団の状態に応じた児童・生徒の様子と指導のポイント

学級集団の状態		学級集団の状態に応じた児童・生徒の様子と指導のポイント				
個の集団とのかかわり	学級集団の状態	1 仲間とのかかわりへの期待 自分の考え方や行動に不安を感じ、他へ依存しながら、周りとのかかわりをもと うとしている	2 気の合う仲間とのかかわり 行動の仕方や好み等、気の合う仲間と グループをつくり、行動を共にする中で、 仲間意識を強くしている	3 異なる考え方の仲間とのかかわり 係や当番等、活動の目的をもった小集 団を学級の総会を通してつくり、その 活動の中で人間関係を広げている	4 学級全体の仲間とのかかわり 学級担任の指導を基に、自分たちの生 活から学級の問題を発見し、主体的に解 決しようとしている	5 学級全体への積極的なかかわり 学級の問題を発見し、その問題の原因 や本質に気付く。充実した学級にするた めに積極的に取り組もうとしている
		・何気なく窓際や立ったり近づく仲間に話しかけたり、同じ遊びで集まったりしながら周りの仲間の様子や学級の雰囲気やうかがっている。	・遊びや宿活動、友達等、自分と共通点のある仲間同士で集まり、楽しく活動するための自分たちのルールや目標を決めている。	・係や当番等の活動のために「私語をしない」「仕事をなまさない」等、自分の要求を抑えながら目標を確認したり提案したりしている。	・学級担任の指導を基に、学級目標をつくる総会が通じ、望ましい集団活動になるように、全員にとって価値のある目標を設定している。	・学校生活の経験を組ませて、学級の課題を自分たちで見いだし、望ましい学級の姿を明確にしながらか学級の目標について活発な意見交換を行っている。
I 目標の設定	仲間と活動の目標を決定する	周囲の思いに気付くことができるようにします。	仲間と考え方を共有できるようにします。	活動の目標を明確にできるようにします。	学級の問題に意識をもてるようにします。	全員の願いを互いに生かせるようにします。
II 方法・手段の決定	仲間と活動の目標を達成するための方法や手段を考える	多様な考え方に気付くことができるようにします。	他の仲間の存在を意識できるようにします。	多様な考え方を認め合えるようにします。	今までの経験を活用できるようにします。	自分の力で判断できるようにします。
III 役割の分担と実践	仲間と活動の中で自分の役割をもち、他の人の役割も理解しながら、協力して実践する	自分の役割を確認できるようにします。	仲間の役割を意識できるようにします。	互いの役割を理解できるようにします。	学級での役割を自覚できるようにします。	個々の力を生かせるようにします。
IV 相互の認め合い	相手の考えや意見を見える	周囲のよさに気付くことができるようにします。	自分の考えを適切に表現できるようにします。	他の仲間のよさを理解できるようにします。	仲間の活動のよさを認め合えるようにします。	各自のよさを発揮できるようにします。
V 所属感・連帯感の高まり	集団に対して所属意識、連帯感や連帯意識が高まる	学級で遊んだり勝ったり何気なく声をかけたりしながら、仲間との共通点を見付けようとして、相手の反応を見ながら自分の立場を確認したりしている。	学級で遊んだり勝ったり何気なく声をかけたりしながら、仲間との共通点を見付けようとして、相手の反応を見ながら自分の立場を確認したりしている。	学級で遊んだり勝ったり何気なく声をかけたりしながら、仲間との共通点を見付けようとして、相手の反応を見ながら自分の立場を確認したりしている。	学級で遊んだり勝ったり何気なく声をかけたりしながら、仲間との共通点を見付けようとして、相手の反応を見ながら自分の立場を確認したりしている。	学級で遊んだり勝ったり何気なく声をかけたりしながら、仲間との共通点を見付けようとして、相手の反応を見ながら自分の立場を確認したりしている。
VI 相互の尊重	相手を尊重し、支えたい行動をとる	仲間大切に気づくことができるようにします。	相手を受け止める態度がとれるようにします。	相手を多面的に理解できるようにします。	互いの存在を認め合うことができるようにします。	互いに評価し合うことができるようにします。

参考資料Ⅲ 指導計画モデル

指導計画モデル(1週間)				
指導目標				
指導のポイント				

	第1日(月曜日)	第2日(火曜日)	第3日(水曜日)	第4日(木曜日)	第5日(金曜日)
朝の会	＜1週間を通して、意識させたり、継続して行動させたりしたいこと＞ ・活動目標、活動予定等の確認 ・活動意欲の喚起 ・道徳の時間や学級活動の内容を踏まえた活動の意欲付け	＜第1日の生活を踏まえて意識させたいこと＞	＜2日間の生活を踏まえて意識させたいこと＞	＜3日間の生活を踏まえて意識させたいこと＞	＜1週間のまとめとして意識させたいこと＞
○道徳の時間や学級活動との関連	・道徳の時間や学級活動で取り上げる内容にかかわる行動のめあてを伝えたり、関連した日常生活の出来事等を意識させたりする。				
道徳の時間	＜指導目標や指導のポイントを踏まえた指導のねらい＞ ・各教科、特別活動等における道徳教育の補充、深化、統合 ・道徳的価値の自覚を深める ・人間としての生き方についての自覚を深める ・道徳的実践力の育成				
○道徳の時間と学級活動の関連	【指導方法例】 ・道徳的なもの見方や考え方を深める話し合い ・日常生活における身近な話題等の教師の説話 ・道徳的な心情を豊かにする読み物及び視聴覚機器の利用 ・主体的に道徳的実践力を身に付ける動作化、役割演技等の活動等				
学級活動	・道徳の時間での指導が学級活動における具体的な活動場面の中に生かされ、具体的な実践や実践の方法についての学習を行う。 ・学級活動における様々な活動において経験した道徳的行為や道徳上の事柄について、道徳の時間にそれらを位置付けて取り上げ、学級全体でその道徳的意義を考えられるようにし、道徳的価値として自覚できるようにしていく。				
○道徳の時間と学級活動の関連	＜指導目標や指導のポイントを踏まえた指導のねらい＞ ＜学習活動・指導方法や活用資料等＞ 【学習活動例】 ・読み物資料やビデオ教材を活用した話し合い活動 ・互いのよさを見付け合う活動 ・学級の問題を話し合う活動 ・適切で豊かなコミュニケーションを図るための活動等				
帰りの会	＜第1日の行動について振り返らせたり、気付かせたりしたいこと＞ ・活動の振り返り ・目標や課題等の確認、集約 ・活動意欲の喚起 ・道徳の時間や学級活動の内容を踏まえた日常生活の振り返り	＜2日間の行動について振り返らせたり、気付かせたりしたいこと＞	＜3日間の行動について振り返らせたり、気付かせたりしたいこと＞	＜4日間の行動について振り返らせたり、気付かせたりしたいこと＞	＜1週間の行動について振り返らせたり、気付かせたりしたいこと＞
○道徳の時間や学級活動との関連	・道徳の時間や学級活動で学んだことを踏まえて、1日の行動を振り返ったり、気付いたことを発表し合ったりする。				